



兵協連だより

HYOGO CONSUMER'S CO-OPERATIVE UNION

2012 9



8月10日(金)、兵庫県民会館けんみんホール（神戸市中央区）にて、「ピースアクション2012 広島被爆ピアノ平和コンサート」を開催。約200人が平和の音色につつまれました。（関連記事P.4）



学校生協の歴史を 明日の力に！

6月27日(水)の兵協連第62回総会において、理事に選任されました。微力ながら会長理事をはじめ役員の方々のご指導を頂きながら頑張る所存ですのでよろしくお願い致します。

兵庫県学校生協は、県下の公立学校の教職員とその退職者を組合員としている職域生協です。同様の学校生協は、全国39都道府県に44生協有り日本生協連学協部会(支所)に結集し、協働・連帯し、生協活動の推進に努めています。

兵庫県学校生協は、1972年の設立以来組合員の生活全般に亘る良質で安価な商品・サービスの提供を通じて、組合員である教職員の生活の安定と教育に専念できる環境を全力でサポートしてきました。

学校生協は、県下全域の学校を

巡回訪問し、組合員と対面で組合員の思いを受け取り事業に反映し、共同購入やカタログ・各種サービス事業の案内や生協活動への理解を得る機会としてきました。近年学校現場では、複雑で多様な教育課題等により繁忙化が進み組合員との対面機会減少が大きな課題となってきました。また、学校生協の事業や理念を理解し、利用して来られた団塊世代の大量退職に伴う急速な世代交代は、共同購入や巡回販売の供給減少につながり、退職後の事業参加を推進する方途も重要な課題です。さらにインターネット世代の消費生活スタイルへの事業対応と「組合員の願いを協働で実現する組織」である学校生協への理解・参加をどのよう

に図っていくかなど変化に対応した事業の再構築や広報・広聴活動

CONTENTS

- | | |
|--|---------------------------------------|
| 2. 想点 | 10. 協同組合のかけ橋 |
| 4. 「ピースアクション2012 広島被爆ピアノ平和コンサート」報告 | 11. 兵庫県のページ |
| 5. 「ピースアクション2012」会員生協報告 | 12. 2012年度「兵庫県生協大会」のご案内／
県連日誌／編集後記 |
| 8. 2012年度 第2回理事会報告／
単協通信 神戸市民生活協同組合 | |
| 9. 単協通信 生活協同組合コープこうべ／
生活協同組合連合会大学生協阪神事業連合 | |



兵庫県学校生活協同組合 専務理事
兵庫県生活協同組合連合会 理事

桑村 義敏

(くわむら・よしとし)

強化を求められています。

2012年度は、2006年に策定された「全国学校生協21世紀新ビジョン」を基本概念とした第16次中期3ヶ年経営計画の最終年度で総括の年です。同時に第17次中期3ヶ年経営計画の策定の年でもあります。

兵庫県学校生協では、「組合員とその家族の生活や仕事を「安全・安心」の基本理念のもと、暮らし全般を総合的にサポートし、組合員にとって最良のパートナーを目指す」をミッションとして取り組んできました。

基幹事業の共同購入事業においては、納期を1週間短縮し登録者制度により配布効率を高めながら利用者増に取り組んでいます。カタログやインターネット利用事業では、今年度から新規媒体を投入し、幅広い年代の多様なニーズへの対応を図っています。

東日本大震災の復興支援については、「東日本大震災支援企画」を夏・冬のギフト、学校生協型連

帯であるガッコウプ事業連合企画で継続して取り組みをしています。

学校生協の経営資源の効率的な活用を目指して取り組んでいるガッコウプ事業連合では、スクーメルリットを生かした企画・物流などを統一し取り組んでおり、今後も学校生協型連帯の可能性を追求していきたいと思えます。

今年度、南極隊員経験者を講師に、南極の生活を通して、自然・環境、協働・夢について学び・考える「南極セミナー」を開催しました。今後学校支援事業として拡充したいと考えています。

先日、日本生協連学協部会が3月に発刊した「学校生協六〇年史」が届き、学校生協の原点が、戦後間もない一九四八年に、衣食にも困窮しながら教育復興と立て直しに奔走していた全国の教職員の生活物資や児童生徒の教材などを供給するために立ち上がった組織であること。学校生協の六〇年の歴史は、全国の教職員の生活の安定と家族の幸せのために教職員

自らが協働・連帯して数々の困難を乗り越え今日があるのだと知りました。また、一九六五年の日本生活協同組合連合会と全国学校生活協同組合連合会との合併契約書には「この合併は、生協運動の飛躍的な発展を願い、広範な消費者層の団結を強固にし、自らの手によって真の平和と生活を守る運動を一点に集中しようとするものである」とありました。

私どもは、学校生協の連帯と協働の精神を貫いた歴史を学び、明日を切り開く力に変え、全国の学校生協と手を携え、地域にあってもは、兵協連の多様な会員生協とも連携し、組合員の望む学校生協であり続けるために組合員・役職員とともに学校生協の抱える多くの課題に果敢に挑戦して行きたいと考えています。

ピースアクション2012 「広島被爆ピアノ平和コンサート」を開催

兵庫県生協連では、毎年、県内の地域・医療・共済・大学などのさまざまな分野の生協と一緒に、平和の大切さ、尊さをみんなで考え、確かめ合う場としてピースアクションの取り組みを行っています。

2009年・西宮市、2010年・明石市、2011年・神戸市東灘区でそれぞれ開催し、今年で4回目となる「広島被爆ピアノ平和コンサート」を、8月10日(金)兵庫県民会館・けんみんホール(神戸市中央区)にて開催しました。当日は、事前にご応募いただいた組合員と招待者、関係者、合わせて約200名が参加しました。

今回演奏された「カズコの被爆ピアノ」は、広島市で原爆投下時、爆心地より2.6kmの民家で被爆しました。原爆の爆風により、無数のガラスの破片が突き刺さり傷ついたピアノは、平成21年5月に所有者のカズコさんより、ピアノ調律師の矢川光則さんに託

され、現在、平和の大切さを伝えるために全国各地でコンサートを開いています。

冒頭、兵庫県生協連・三宅専務理事より挨拶のあと、ヤガワ楽器調律センター・ピアノ調律師の矢川光則さんから、被爆ピアノとの出会いやご自身の活動、核兵器の現状についてお話をいただきました。矢川さんは「平和だからこそ、音楽を奏でることができ。このコンサートが、平和の尊さを考えるきっかけになっていただけだと思います」と語られました。

続いて、ピアニスト・向井理佐美さんの「カズコの被爆ピアノ物語」の演奏と朗読、「幻想即興曲」、「ノクターン20番遺作」、そしてソプラノ歌手・工西美穂さんと一緒に「アヴェマリア」、「青い空は」などの演

奏がありました。また、休憩時間には会場のみなさまに被爆ピアノを近くでご覧いただきました。写真を撮られたり、鍵盤に触れてみると、原爆の熱線を越えて平和を語り継ぐ被爆ピアノを身近に感じていただくことができました。

後半は、一般公募で選ばれた矢田将人さん、東本紗菜さん、山下祐子さんの3名の方々が、被爆ピアノを奏でました。最後には会場の参加者全員で「夏の思い出」「ふるさと」を合唱し終演しました。

当日は、ピースアクション委員で司会進行の六車恵美子(コープこうべ・組織政策推進室)さんをはじめ、ピースアクション委員がピアノ搬入から舞台進行、舞台設営や出演者誘導、入場受付、会場整理などを分担。全員で力を合わせて運営にあたり、コンサートを無事に終えることができました。平和を祈り続ける被爆ピ

アノ。その美しい音色に、会場の参加者からは「世界中の人に平和の音色が届きますように」「改めて日々過ごしている毎日に感謝したいです」という声が寄せられ、心温まるコンサートになりました。



休憩時には多くの方に被爆ピアノを間近でご覧いただきました



ピアニスト・向井理佐美さん、ソプラノ歌手・工西美穂さん



ピアノ調律師 矢川光則さん



被爆ピアノを演奏される矢田将人さん



被爆ピアノを演奏される東本紗菜さん



被爆ピアノを演奏される山下祐子さん

ピースアクション2012 会員生協報告

●コープこうべ 第1地区本部

平和のつどいで、

映画「一枚のハガキ」を上映

7月22日(日)平和のつどい「一枚のハガキ」の映画上映を行いました。5月に新藤兼人監督が100歳で他界、これが最後の作品となったためか、お申し込みが急増し、当日は188名の方にご参加いただきました。



映画では、「くじ引き」によって、生死を分けられた兵士たちとその家族が描かれます。太平洋戦争の末期に召集された100人の兵は、くじ引きによって赴任先が決められました。その赴任先を知り、死を覚悟した友から、「検閲が厳しくて、妻(大竹しのぶ)からのハガキに返事が出せない。もし、君が生きて戻ったら、ハガキを読んだことを妻に伝えてほしい」と主人公(豊川悦司)は託されます。友を含め94人は戦争で帰らぬ人となりました。主人公は、生



©2011「一枚のハガキ」/近代映画協会/渡辺商事/ブランドス

き残りの6人のうち1人として帰郷しますが、生き残ってしまつたことによりきれいな

罪悪感を抱えています。そのような主人公の思いと、戦争により人生を狂わされた友の妻の悲しみや、やり場のない怒りを通して戦争の愚かさ、不条理などが描かれた作品でした。今回のつどいは、「平和の会」の皆さんが企画し、前日の準備から当日の司会・運営までを担当してくれました。また、つどいの会場内には、「平和の会」の皆さんが作成した赤いポストのある、「心ころころ郵便局」が開設。映画のタイトル「一枚のハガキ」にちなんで、手作りのハガキも配られ、参加者は平和へのメッセージを記入して、赤いポストに投函(ハガキを貼り付け)していました。ユニセフグッズの販売、平和のカンパ募金の取り組みもあり、大変充実した「平和のつどい」となりました。

(ピースアクション委員

吉村恵理子)

●コープこうべ 第3地区本部

大人と子どもをつなぐ

平和へのちかい

7月14日(土)、生活文化センターホールで「平和を願うつどい」を開催しました。地区平和企画委員会が企画運営するこの催しに180人が参加し、ピースメッセージ454枚が寄せられました。

オープニングは「アンサンブルソレイユ」。5人の小学生のバイオリンも加わり、心なごむひとときです。コープソング「風のように」や被災地を思う「幸せ運べるように」を会場も一緒に歌いました。

次に平和企画委員全員が舞台上上がり、コープこうべの平和活動の指針である「平和へのちかい」を会場のみなさんと唱和。委員の思いが伝わりました。

中学生の方が「沖縄平和スタディツアー報告」を、大学生の方が「PHD協会インドネシア研修報告」を、それぞれ堂々と発表。参加者からは「共感した」「次世代を頼もしく思った」と感想が寄せられ、大人と子どもがともに平和を考える機会となりました。

最後に神戸市立科学技術高校の新山浩先生から「アートとデザイン」を切り口に平和を考える問題提起のお話を聞いて、高校生のパフォーマンス「軌跡のアーカイブ」を鑑賞しました。

この催しには「震災支援を考える



会)「兵庫県ユニセフ協会」「PHD協会」コープサークル「ぶらんこ」"ともしびこぼと"も出展しました。(ピースアクション委員 岩本衛)

●コープこうべ 第5地区本部

7月23日(月)、「平和のつどい」落語家・笑福亭鶴笑講演会、笑いは世界の共通語」を垂水勤労市民センター・レバンテホールで開催しました。幅広い年代の組合員約320名が参加し、今日的な平和の意味や東日本大震災の息の永い復興支援について考える機会となりました。

午後1時開演の冒頭で、八尾理事が、「コープこうべは、平和な社会を維持・発展させるために、『平和へのちかい』を指針として、様々な活動をしています。『平和へのちかい』には、『平和』の反対語として、



「大きな自然災害や激変する社会不安」という言葉が記載されています。日本や世界の政治・経済が混沌とする中、すべての人々にお

いての平和とは何なのか？次世代にしっかりと引き継いでいけるように、本日のイベントが考えるきっかけになれば」とあいさつをしました。

第一部では、「神戸市消防音楽隊」のみなさんに演奏いただきました。年間約200回の演奏を行いながら防火・防災を呼びかけ、市民のみなさんに愛され、親しまれる音楽隊として、安全で安心なまちを神戸に築くために活動されています。誰も耳にしたことのある「1970年代を代表するカーペンターズのメドレー」でオープニングを飾りました。神戸をゆかりの地とした大河ドラマ「平清盛」のオープニングテーマや若大将シリーズでお馴染みの加山雄三さんの曲も演奏いただき、幅広い年齢の方々にご満足してもらえました。

続いて、ジュニアコーラス・ティンカーベルのみなさんにコープソング「風のように」を含めた合唱とパフォーマンスを披露いただきました。歌の間で、名谷小学校の寺岡直哉さ

んから「平和への思い」をスピーチされました。

第二部は、手作りの人形を駆使したオリジナルパペット落語を引き下げ、世界を舞台に活躍を続けられている笑福亭鶴笑さんの登場です。冒頭いきなり「コープこうべさんの平和のつどいで落語することが小さい頃からの夢でした」と出だしから圧倒的な笑いのパワーを放つ「鶴笑ワールド」で会場全体が一気に盛り上がりました。

その後、「国境なき芸能団」として、内戦中のイラクに入り、学校や病院などで笑いと物資を届けるボランティア活動をスライドにて紹介。「言葉が通じなくても、笑いつて人間らしさを取り戻す一番大切なもの。一緒に笑うとみなともだちっ!!」と簡単な言葉で話される中に鶴笑さんのご苦労と信念を伺うことができ、笑いのパワーとそこから生み出される感動をいただきました。終演後もホール出口付近でサイン会を行いながら、退場されるみなさんに、「夢は必ず叶いまっせ!!」と最後まで鶴笑ワールドを繰り広げていただきました。

(ピースアクション委員 西村和宣)

●コープこうべ 第6地区本部●

8月23日(木)第6地区本部において、平和のつどい「竹本成徳会長被爆体験講演会」を開催しました。広島で原爆に遭い、爆心地から1キロ



以内で被爆したにもかかわらず、奇跡的に生き延びた体験、死の惨状を赤裸々に語られました。参加者55名(子ども5名含む)は熱心に聞き入り、平和の大切さを改めて感じた一日となりました。参加者からは「戦争は2度と起こしてはいけない、核で人が死ぬようなことは絶対にあってはならない」「今、私たちの前にある平和がいつまでも続きますように」との思いが寄せられたほか、戦争を経験した人が少なくなる中で、戦争を知らない世代が今一度、平和という事の大切さを考え、後世に伝えていかなければならない」と感じた人も多数いました。一人でも多くの人に原爆の体験を伝えたい」という竹本さんの言葉に対して、様々なことを考えさせられた一日でした。

(ピースアクション委員 石原淳)

●神戸医療生活協同組合●

平和の取り組みについて

今年の運動の取り組みは、昨年の3.11東日本大震災による原発ゼロの取り組みが広がっています。7月16日の「さよなら原発10万人集会」には、全国から17万人が東京・代々木公園に集まりました。医療生協からは職員・組合員33名が参加し、17万人のデモに圧倒されました。一日も早く原発をなくし、「子どもたちが安心して生きていける社会」をつくっていくことを痛感しました。これに呼応して、毎週金曜日の関西電力神戸支店にむけた包囲行動にも自主参加しています。

また、6月3日に大久野島の毒ガス工場跡の見学バスツアーも実施しました。

そして毎年行われている平和行進で、兵庫県内を医療生協の旗を引き継ぎながら、7月10日の夜は、激励会を開き、平清盛に思いをはせ、一弦琴の演奏や、三味線に踊り、みんなで合唱と平和を願い、交流しまし



ピースアクション2012 会員生協報告

た。8月4日から6日までの「原水爆禁止世界大会」には、職員・組合員13名が参加し、核兵器をなくし、平和を守る運動をさらに強めていくことが報告されました。

また8月4日は「平和展」を開き、原爆パネルの展示、すいとんの試食、DVDの上映などが好評でした。
(ピースアクション委員 河村由美子)



● 坂神医療生活協全組合 ●

2012年は、長崎平和行動へ

8月7日、8日の2日間、9名の組合員さんと職員で実施しました。長崎での原爆死没者数は15万8千人、広島と同様、多くの人々が亡くなりました。「平和の泉」の碑文には……「のどが乾いてたまりませんでした。水にはあぶらのようなものが一面に浮いていました。どうしても水が欲しくて、とうとうあぶらの浮いたまま飲みました」―あの日のある少女の手記から
どれだけ痛くて、苦しくて……の



ども渴き、つらかったでしょう……
原爆が投下され67年が経過しましたが、今後も原爆の悲惨さを後世に伝えることを、また、

現地を訪れて自分の目で確認し、考えることの重要性を思いました。

また、岡まさはる平和資料館も訪れ、中国人・朝鮮人の強制連行の実態を目の当たりにし、そこには知られざる実像がありました。

二度とこのようなことが起こらないように、今後も平和について考えていきます。
(ピースアクション委員 大石眞吾)



● 姫路医療生活協同組合 ●

今年も6月12日と7月10日に「平和カフェテリア」をおこないました。メニューは定番のおはぎ・ちらし寿司・いなり寿司・ホットドックです。朝6時半、共立病院職員食堂に23人



のボランティアが集合。ベテラン主婦の手でメニューの品が出来上がります。それを病院玄関前の販売所でできるのを心待ちにしていた病院利用者とその家族の方に販売し、あらかじめ予約のあった事業所にも配達しました。それぞれ11

7月2日は「平和バスツアー」淡路島に行き、大型バスいっぱい49名で予科練生の慰霊碑や由良良生石砲台跡の戦争遺跡を訪れ、高田屋嘉兵衛記念公園や県立健康道場にも行ってきました。

これらの収益をもとに原水禁世界大会に2名の代表派遣をおこないました。

「国民平和大行進」も7月13日午後の大塩駅から16日午前の岡山県境まで多くの組合員・団体の皆さんが歩きました。今年には特に意識的に参加を訴え「姫路医療生協」と「全日本民医連」の旗を途切れることなくつなぐことができました。

例年のごとく飾磨駅でジュース・姫路市役所でお茶・広栄橋西詰でスポーツドリンク・あほし診療所でお

● ろっこう医療生活協同組合 ●

ろっこう医療生協では、夏休み期間を利用して、紙芝居サークルのメンバーを中心に、神戸市灘区内の学童保育や児童館に出向き、「かわいそうなぞう」や「二度と」など戦争



紙芝居を演じる組合員さん

や平和をテーマにした紙芝居を子供達の前で演じました。紙芝居を演じた組合員は、何年ものベテランもいれば、この取り組みのため一生懸命練習して初めて紙芝居を演じた組合員もいました。また、紙芝居終了後、核爆弾の模型を作った子供達に見せたりしました。子供達をお世話する責任者からは「戦争の紙芝居は暗い内容ですが、そもそも戦争は暗くて恐ろしいもの。その事実を子供達に伝えることが大切ですね。」との感想を頂きました。今年初めての取り組みで、5ヶ所ほどを廻りましたが、来年は中央区や東灘区の児童館や学童保育にも呼びかけていく予定です。

(ピースアクション委員 古市賢二)

2012年度 兵庫県生協連 第2回理事会報告

- I. 開催日時 2012年8月6日(月) 午後3時2分～4時41分
II. 開催会場 兵庫県民会館 12階「1201」
III. 出席者 本田会長理事、寺尾副会長理事、三宅専務理事、
板崎、高橋、福島、新保、伴、大沼、小野田、
酒井、桑村、若山（以上、理事）、
藤田、金丸、秦（以上、監事）



〈報告事項〉

- (1) 「会員生協の概況報告」について、各出席理事・監事より報告
- (2) 前回理事会～8月上旬までの兵協連諸行事・諸活動報告
- (3) 国際協同組合年の取り組み進捗状況
- (4) ICA-AP地域総会の内容について
- (5) 第24回近畿地区生協・行政合同会議の開催について
- (6) 兵協連 第1回生協対策資金貸付審査会 開催報告
- (7) 兵協連 第1回監事会 開催報告
- (8) 2012国際協同組合年 第90回国際協同組合デー兵庫県記念大会 報告
- (9) 2012国際協同組合年 兵庫県生協大会について
- (10) 会員生協概況報告
- (11) 2012年度 兵協連主要行事スケジュールについて

〈協議事項1〉

2012年度生協功労者表彰（県知事感謝・兵協連会長表彰）の件

〈協議事項2〉

第11回兵庫県健康福祉部・兵協連理事会との懇談会の開催について

〈協議事項3〉

平成25年度兵庫県当初予算編成にあたっての要望書について

〈協議事項4〉

常勤役員の退職慰労金支給の件

単協通信

8 ● 兵協連だより

神戸市民生活協同組合

風見鶏の館でピアノ発表会を開催しました

7月27日(金)、8月3日(金)の二回にわたり、風見鶏の館にて小学生から高校生までの子どもたちによる「風見鶏の館ピアノ発表会」を開催しました。

これは子どもたちが日頃異人館を訪れる機会の少ないことから、より異人館に親しんでいただくとともに、日頃の練習の成果を発表する場を提供しようと6年前から始められたものです。毎年多くの子どもたちに参加いただき、毎回参加される熱心な方も多い催しとなっています。

今年も両日とも猛暑の中での開催になりましたが、子どもたちはみんな元気いっぱい、会場ではクラシックの名曲からジャズ、ラジオ体操の曲まで様々なジャンルの曲が演奏されました。「ピアノが好きで、将来の夢はピアニスト」という子どもたちに、館を見学中の観光客の方からもあたたかい拍手が送られました。

風見鶏の館では定期的に日中コンサートや夜間コンサートを行って



みんなすてきな音色でした

り、館を度々訪れてくださる音楽好きの方々も多くおられます。これからも音楽を通じて異人館の魅力を発信していきたいと思っております。

(通信員 鹿田裕子)

生活協同組合コープこうべ

福島の子どもたち30人を招待

自然の中でキャンプを楽しみました

7月29日(日)～8月2日(木)、「福島の子ども保養プロジェクトinよしまキャンプ」が行われました。「福島の子ども保養プロジェクト」は、原発事故の被災地域の子育て世帯を対象に、週末や長期休暇中に低線量の地域で過ごす機会を提供して、精神的なケアを行うもの。福島大学災害復興研究所、福島県ユニセフ協会、



福島県生協連が主催しています。

今回は、福島県生協連の要請を受けて福島県の被災地域の小学生に、思いっきり自然を

楽しんでもらおうと、コープこうべが神戸YMCA、兵庫県ユニセフ協会と協働で企画。活動の舞台となった余島は、瀬戸内海に浮かぶ小豆島鹿島沖1kmに位置する周囲2.2kmの無人島で、干潮時には、小豆島本島と陸続きになります。子どもたちは、「神戸YMCA余島野外活動センター」に宿泊し、カヌーや釣り、アーチェリー、クラフトなどを楽しみました。

1日(水)には、組合員や役員・職員が「夏祭り縁日」を開催しました。

(通信員 榎原昌子)



大学生協阪神事業連合

宮城・岩手被災地視察研修を終えて

7月25日・26日の2日間、宮城県と岩手県を中心に東日本大震災の被災地視察研修に参加してきました。今回の研修では、南三陸～気仙沼～七ヶ浜～荒浜・閑上地区を視察してきました。

南三陸では最後まで住民に避難放送を続け亡くなられた女性職員が勤務されていた防災対策庁舎などを視察しました。宿泊先である南三陸ホテル観洋では、女将の阿部憲子さんから震災当時の対応や今も続けている地域支援について、貴重なお話を伺いました。阿部さんは雇用の確保と子どもたち向けのボランティアが地域の活気につながると話してくれました。そして今でも子どもたちのために寺子屋や英会話教室を開いているそうです。

2日目の朝にはホテルが主催する語り部バスツアーにも参加しました。震災を風化させないためにホテルの従業員



員自らが語り部となり、この地を訪れる観光客に説明をしていました。ホテルを後にしてからは、私たち大学生協が継続的にボランティア活動の拠点としている宮城県七ヶ浜町の復興支援ボランティアセンターや周辺の荒浜地区(仙台市)、閑上地区(名取市)を視察しました。多くのボランティアの方がこの日も訪れていましたが、今もなお手つかずの状態が多く残る現状を目の当たりにして、あらためて継続的な復興支援の必要性を感じました。

今回の視察研修を終えて、語り継ぐことの大切さを痛感しました。語り継ぐためには現地に足を運び、現地の方の話聞くことが大切です。そして、現地に行けなかった人に話を伝え、遠方からでもできる復興支援とともに考え行動に移すことが必要です。「被災地とともに」の精神は、17年前に私たちが強く感じた思いです。これからも自分のできることを考えながら、被災地とともに歩んで行こうと思います。最後に今回の研修でお世話になった東北のみなさんへの感謝で報告を終えたいと思います。ありがとうございます。

(通信員 藤江正俊)

JF

兵庫県水産振興基金

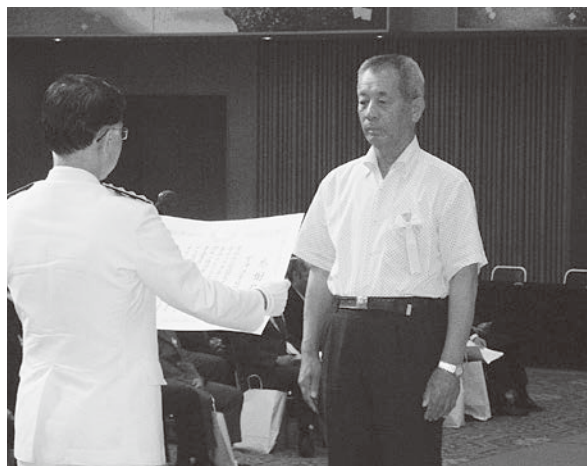
JF室津が「海の日」海事関係功労者大臣表彰を受賞～兵庫県で初めての受賞～

国土交通省は、毎年、「海の日」にあわせて、海で活躍された人や団体に贈る海事功労者などの表彰を行っています。本年度の表彰式は7月17日(火)に神戸市内で行われ、受賞者約110人が出席しました。

様々な分野での表彰があるなか、灯台監視活動協力功績については、長年にわたり航路標識の維持管理に努め、海上交通の安全確保に貢献したことが認められた方や団体に贈られるものです。今年は全国で4JFが選ばれ、本県からはJF室津が初めて受賞しました。

表彰式にはJF室津 中川 照央組合長が出席し、第五管区海上保安本部長 石指 雅啓本部長から表彰を受けました。

おめでとうございます。



石指本部長から表彰を受ける中川組合長

JA

JA グループ兵庫

神戸ビーフ 香港へ初輸出

神戸肉流通推進協議会（事務局：JA 全農兵庫畜産部）は7月18日、「神戸ビーフ 香港向け初輸出」の出発式をホテル日航関西空港11F「ジェットストリーム」で開催しました。今年2月、マカオへの輸出開始以降、近隣の香港からも熱烈なオファーが続出しており、マカオへの初出荷を手掛けた輸出元のエスフーズ株式会社、輸入先の香港和牛達人有限公司の尽力により、香港への初輸出を実現することができました。

式典には約100人の関係者が出席し、神戸肉流通推進協議会の上羅堯己会長が「神戸ビーフを世界の方々に食してもらう機会がまた一つ開かれ、関係者の皆さまにお礼申し上げます。今後とも神戸ビーフ発展のためにご協力を賜ります」とあいさつ。また、エスフーズ株式会社の村上社長、和牛達人有限公司の吉田社長、香港インターコンチネンタルホテル「日本料理ノブ」のエグゼクティブシェフのエリック氏が出席し、上羅会長、平井力副会長、兵庫県の吉本知之副知事らと一緒にテープカットを行いました。続いて神戸ビーフの試食、出発するジャンボジェットの前での記念撮影を行いました。



ジャンボジェット前で香港への輸出成功を願う関係者



最近の消費生活相談事例

ファンド型投資商品に関する相談が急増

事例

電話で二酸化炭素排出権取引に関するファンドが高配当だとして、投資商品の購入を勧誘されたが、信用できるか。

【アドバイス】

ファンドへの出資契約に伴うトラブルなど、ファンド型投資商品に関する相談が急増しています。その手口は、鉱山採掘権、和牛オーナー契約、風力発電事業への投資など、ますます複雑・巧妙化しています。

ファンド型投資商品とは、運用者が1人又は複数の者から資金を集めて運用し、そこから得た収益又は財産について、出資者に配分を行うものです。出資者が利益を得られるかどうかは不確実であるだけでなく、場合によっては出資金の全額が返還されない恐れがあります。

これらの相談の特徴は、①高齢者をターゲットに「必ず儲かる」と勧誘し、リスクについて十分な説明をしないまま、実態のわからない高額な出資契約を結ばせている、②事業者が行政処分や警察の捜索などを受けた場合、出資金の払い戻しが不能となることがほとんどであり、被害回復が図れないことが挙げられます。

投資は複雑でハイリスクな取引なので、仕組みが理解できなければ絶対に契約をしないことです。もし不本意な契約をしてしまったら、クーリング・オフが可能な場合もあるので、すぐに最寄りの消費生活センターにご相談下さい。

(兵庫県 生活科学総合センター 078-303-0999)



MOVE

2012年度

兵庫県生協大会



協同が息づく兵庫のまちづくり／協同組合がよりよい社会を築きます

と き：2012年10月9日(火) 13時～16時30分
と ころ：兵庫県民会館・9階けんみんホール
神戸市中央区下山手通4-16-3 TEL (078) 321-2131

第1部

13:00～13:50

記念式典

- ◆主催者あいさつ 兵協連会長理事
- ◆来賓あいさつ 兵庫県知事
神戸市長
兵庫県議会議長
- ◆生協功労者表彰 県知事 感謝
兵協連会長表彰

第2部

14:00～15:40

講演

一緒に考える、
これからの環境、
エネルギーの
あり方と
生協の役割



日本生協連 政策企画部長 小熊 竹彦氏



健康チェックの風景

今や、環境、エネルギー、とりわけ節電(省エネルギー)と再生可能エネルギーは国民全体に関わる身近な課題です。

大規模な火力発電や原子力発電だけに依存することができなくなっている今日、どのような取り組みを工夫できるかが重要なポイントです。

生協としての役割と組合員一人ひとりが果たせる役割をご一緒に考えてみたいと思います。

展 示

2012国際協同組合年
紹介パネル

903号室 (15時40分～16時30分)

健康チェック

骨密度・体脂肪・
血圧測定など

902号室 (15時40分～16時30分)

即売コーナー

東北地方の特産物と
コープ菓子パン
即売コーナー

◆定員 300人 ◆入場料 無料(入場整理券が必要です) ◆お申し込み 各生協・団体にてお申し込みください。

●お問 い 合 せ ●

兵庫県生活協同組合連合会(担当:濱田) TEL:078-391-8634 FAX:078-392-2059 主催:兵庫県生活協同組合連合会

県連日誌

9月5日(水) 兵協連 第2回生活問題研究会 (県民会館 ばら)

9月13日(木) 兵協連 第3回生活協活動委員会 (県民会館 1101)

編集後記

8月10日、今年で4回目の「広島被爆ピアノ平和コンサート」を開催(関連ページP4)。私自身は初めての事務局担当でした。連日のコンサート。前日は長崎での公演を終えて夜通しトラックを運転して、早朝に神戸に到着された矢川さん。その超人パワーに脱帽です。☆被爆ピアノの音色は、想像していたよりも、はるかに力強く、心に響くものでした。平和の音色に包まれた時間が過ぎ……神戸をあとにされる矢川さんのトラックをお見送り。安堵とともに、放心状態の私。そして「朝、ピアノが届かない！」という連日の悪夢から解放され、その夜はぐっすり爆睡いたしました。コンサートにご参加のみなさま、ピースアクション委員のみなさま、ありがとうございました。(中尾)

